

不況脱出にストライク作戦



【本報】愛知県知多郡東浦町の紡績工場が、このほど操業を全面ストップ、敷地の一部にボウリング場を開いた。慢性不況を見越して経営の多角化をねらう企業は多いが、なかでも繊維関係は深刻。日米協定で追打ちをかけられて、紡績会社のボウリング場進出がめざましい。さて、不況脱出の決めダマとしてうまくストライクをとれるかどうかー。

この工場は、昭和二十一年に建設された。当時は、東浦町の中心地として、大規模な工場として建設された。しかし、戦後、繊維業の不振により、操業がストップした。現在は、敷地の一部にボウリング場を開き、不況脱出の決めダマとして、うまくストライクをとれるかどうかー。

系織るよりボウリング場 転身工場つきつき

この工場は、昭和二十一年に建設された。当時は、東浦町の中心地として、大規模な工場として建設された。しかし、戦後、繊維業の不振により、操業がストップした。現在は、敷地の一部にボウリング場を開き、不況脱出の決めダマとして、うまくストライクをとれるかどうかー。

不況脱出にストライク作戦

【半田】愛知県知多郡東浦町の紡績工場がこのほど操業を全面ストップ、敷地の一部にボウリング場を開いた。慢性不況を見越して経営の多角化をねらう企業は多いが、なかでも繊維関係は深刻。日米協定で追打ちをかけられて、紡績会社のボウリング場進出がめざましい。さて、不況脱出の決めダマとしてうまくストライクをとれるかどうかー。

操業をやめて全面作戦転換をしたのは知多郡東浦町森岡前田、前田紡績＝社長・長坂三郎東浦町長（58）＝。これまで同社は従業員約百人、一万五千錘の綿紡績施設で操業していた。知多半島内でも一応、名のとった会社。

「ボウリング場建設計画は一年半前から。思いつきで着手したわけではなく、繊維業界の先行きを見越してのこと。工場は少しずつ規模を縮小、完全に機械をとめたのは、ボウリング場オープンの日ほど前。だが紡績の機械など、まだそのままにしてある。繊維の自主規制、ドル・ショック、日米繊維協定のトリプルパンチ、とくに中小紡への影響は大きい。だから当分は、このまま静観、ある程度、見とおしがついたら再開するつもりでいる」と、長坂さんはいう。

ボウリング場は三十四レーン。紡績工場の事務所と従業員寄宿舎跡約六、六〇〇平方メートルの敷地。このほか約三、三〇〇平方メートルの駐車場もある。紡績の従業員は、ほとんど希望で同系列の織布工場へ配置転換、一部は半田市内などの紡績工場へ。三十人は、新しい職場のボウリング場を希望、真新しいユニホームを着た。「二年前、米国視察をしたとき、日本繊維業界に、大きな試練が来ると感じた。またゴルフを通じてできた友だちは、心から理解し合える人たちばかりだった。ボウリングも同じことがいえそう。町の人の話合いの場になればと、思い切ってやった」←長坂さんの紡績からボウリング場への百八十度転換説。

オープンの前夜、日米繊維政府間協定の仮調印が行なわれた。色あざやかな花輪が飾られ、真っ青な秋空にあげられた十数個のアドバルーンの花やかさにひきかえ、軒を並べひっそりと静まり返った紡績工場のノコギリ屋根、ボウリング場に負けないような広さの原綿倉庫が、激しい時代の移りかわりを見せつけていた。

このほかにも紡績会社のボウリング場進出はめざましい。名古屋市内では、大東紡が北区の工場跡地に六十二レーンを建設中

で、十二月ごろオープン。東洋レーヨンも熱田区に同様建設中。愛知県下では西春日井郡師勝町の尾州紡績が六万六千平方メートルの工場敷地のうち約四分の一の一万七千平方メートルを使い、約三十戸の社宅をとりこわして三十レーンのボウリング場と一七〇ヤードのゴルフ練習場など総合スポーツ練習場をつくっており、こも十二月十五日にオープンする。また都築紡が、昨年十二月、大府市にオープンしたボウリング場を増設中で、さらに稲沢市にも計画中。

岐阜県でも羽島郡柳津町の大洋紡が来年四月オープン、三重県では四日市市で平田紡が計画中で、いずれも来春完成する。工場の一部を取りこわしてボウリング場をつくる尾州紡では現在約五百人の従業員のうち三十人をそっくりボウリング場要員に移し、臨時工は自然退社させるという。

東海地区ボウリング協会の調べでは、現在の加盟ボウリングセンターは百三十二、愛知、岐阜、三重の三県下で昨年一年間にできたボウリング場は四十二、千三百レーン。同協会では「ことしは昨年を大きく上回り、二千レーンになりそう」といい、建設ブームに繊維不況がひと役かって拍車をかけている。

ゼロル